



「リサーチアドミニストレーターを
育成・確保するシステムの整備」事業
進捗状況報告
(平成24年度採択)

山口大学

平成26年4月24日

山口大学におけるURAシステムの維持に向けた取組

資源	維持に必要な取組等	整備・準備状況	
人材	URAを公募, 選抜, 雇用する体制整備	公募要領・各種規則整備済	○
	URAのキャリアパス整備	キャリアパス制度整備済	○
	URAの評価システムの整備	評価システム整備済・試行中	継続
	URAの昇進等人事システムの運用	昇進事例有, 今後も随時実施	継続
	一般事務部門からの人材登用	URA支援事務部門への配置済	○
財源	基金・運営費交付金からの確保 (短期)	新執行部内で確認済	○
	競争的資金の間接経費からの確保	新執行部内で確認済	○
	事務業務&人員配置の見直し (中長期)	新執行部内で確認済	○

副学長（理事）とURA室運営体制（各種委員会・委員長）との対応関係

- ◆総務企画担当副学長（理事）→ URA企画支援委員会（URA室運営への助言等）
- ◆人事労務担当副学長（理事）→ URA評価基準等策定委員会（URA評価基準策定等）
- ◆学術研究担当副学長（理事）→ URA室運営委員会（URA室運営全般, 意思決定等）

山口大学におけるURAシステムの整備状況概要

I URA組織体制整備構想の進捗状況

- ① URA体制整備の現状（URA室の体制）
- ② URA関連部署の連携状況
- ③ URAの活動状況事例

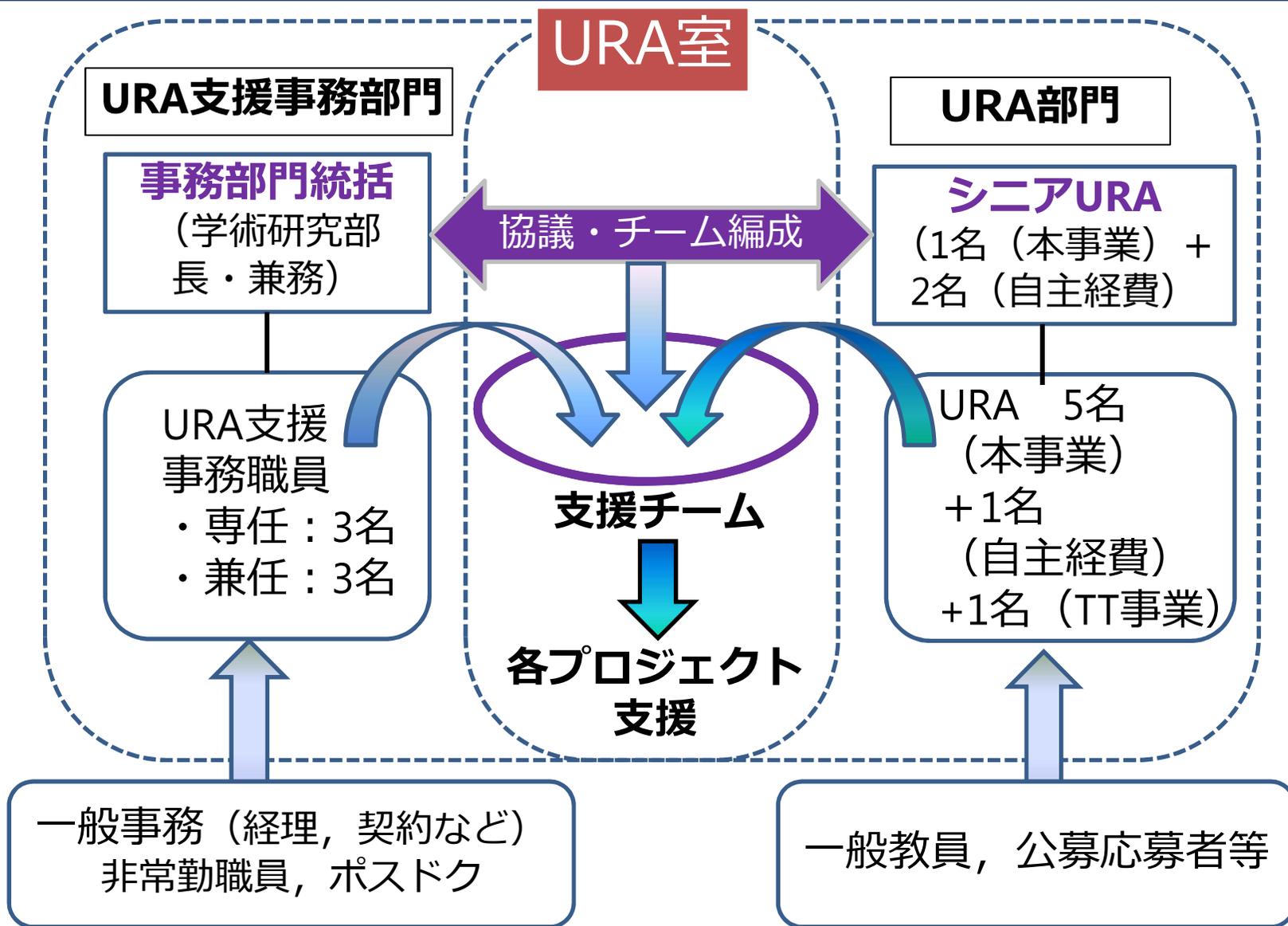
II URAの職務環境等整備の進捗状況

- ① URAの業務達成目標設定と評価体制
- ② URAの能力開発に関わる取組

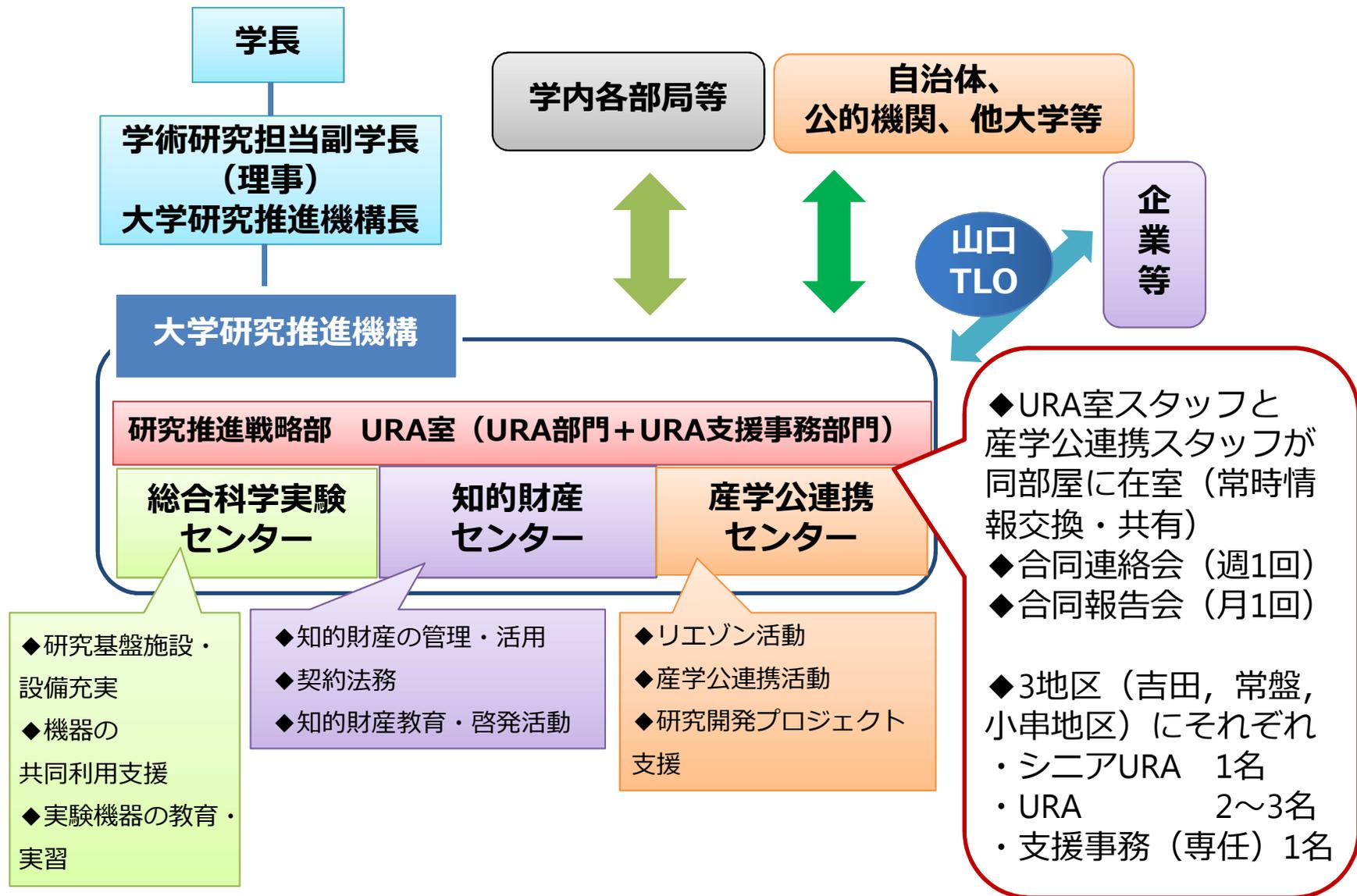
III URAシステムの定着・運営の安定化に関する 取組状況

- ① URAのキャリアパス形成

I - ① URA組織体制整備の現状 (URA室の体制)



I - ② URA関連部署の連携状況

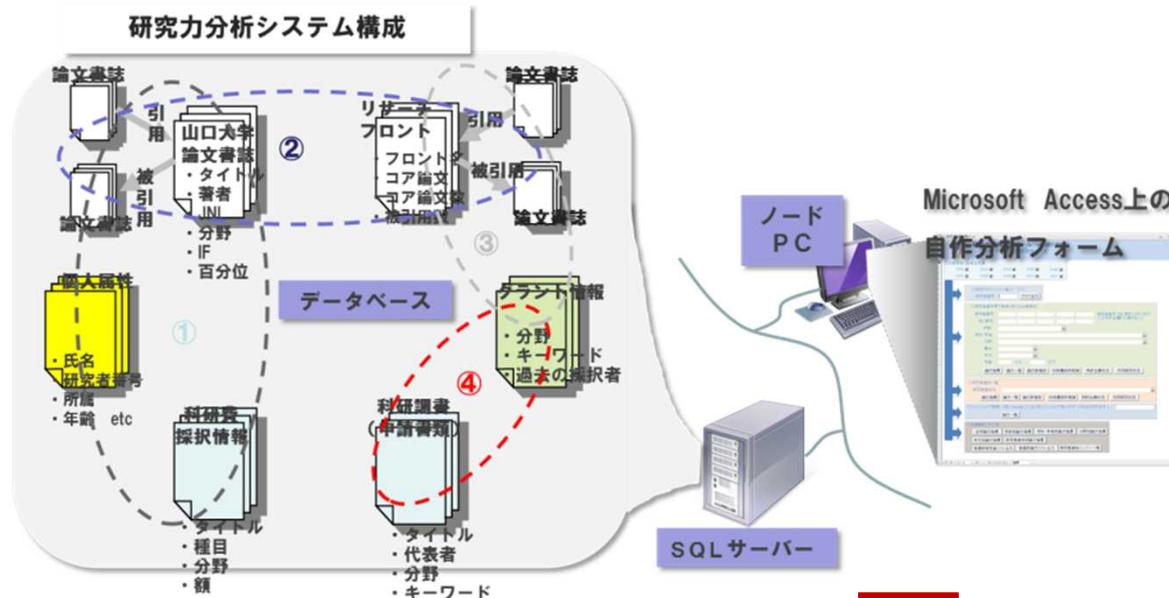


I - ③ URAの活動状況事例

- **個人の創意・自発型及びプロジェクト型研究推進支援**
 - 研究推進体の活動状況分析，課題洗い出し，今後の方針提言の実施
- **文理融合研究領域，特に「時間学」の共同研究拠点化への支援**
 - 時間学研究所への定常的な支援
 - 新しいプロジェクト形成支援（時間防災学プロジェクトの立ち上げ，学内研究ネットワーク形成と助成金採択への支援）
- **学外への研究成果の「見える化」の推進と成果の発信力強化**
 - 大学研究成果の広報活動へのURA室の関与
 - 国際学術論文作成支援のためのセミナー開催
- **学内事務組織との連携強化**
 - 概算要求に対するURA室の協力

(事例1) 研究力分析と研究戦略提案

各種提案のベースとなる研究力分析システムの整備とこれを用いた研究戦略の提案実施



◆ 学内研究者・研究チームの実力と研究者ネットワークを把握

◆ 論文書誌情報に学内データ、科研データ等を組み合わせた自主システム

研究戦略提案

《実績》

- ◆ 研究推進体の分析, 改善提案: 研究推進体制度そのものの見直し提案
- ◆ 概算要求時の提案案件の分析, ブラッシュアップ対応
- ◆ 国際連携大学候補の選定、部局別強み分野の分析と支援研究者の探索
- ◆ 研究投資と研究力の関連分析に基づく、研究先行投資の重要性の指摘

(事例2) 学内事務組織との連携強化

URA支援事務部門のスタッフが仲介する学内事務組織とURA室の連携強化

◆概算要求に対するURA室の協力

財務部をはじめとした事務部門との連携により、概算要求におけるプロジェクト提案ではURAの専門性が活用されたことで、全学を見通したプロジェクト構築の可能性が広がった。

◆従来の概算要求対応の課題

- ・各部局内での個別研究がベースとなっており、優先順位の判断が困難
- ・機能強化や組織的取組など、全学視点での提案が難しい 等

URAの専門性活用



分析に基づく提案・
ブラッシュアップ等

◆新しい方法による対応

1. 各部局からの概算要求事項提出
2. URAによる研究力分析、マッチング提案、事前の課題抽出などの参考意見の提出
3. ヒアリング対象プロジェクトの選定
4. 対象プロジェクトについて学内ヒアリングの実施
5. マッチング・ブラッシュアップの実施
6. 概算要求事項絞込み
7. 本省事前説明

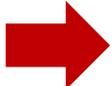
◆効果

- ・URAによる対応体制の見直し機会の提供
- ・マッチング提案、ブラッシュアップによる部局横断型の異分野融合研究の実現
- ・政策動向との整合性、適合度の向上
- ・研究力分析に基づくパフォーマンスの可視化
- ・課題の事前抽出、改善プロセスに伴う提案プロジェクトの質的向上 など

Ⅱ-① URAの業績達成目標設定と評価体制

URA室の業務の明確化とそれに基づく評価確立のために

平成24年度のURA室の活動の反省 URA業務に試行錯誤の面も

 本学におけるURAミッションの定義の明文化

◆ 「山口大学におけるマネジメント人材について」 (山口大学URAミッション)

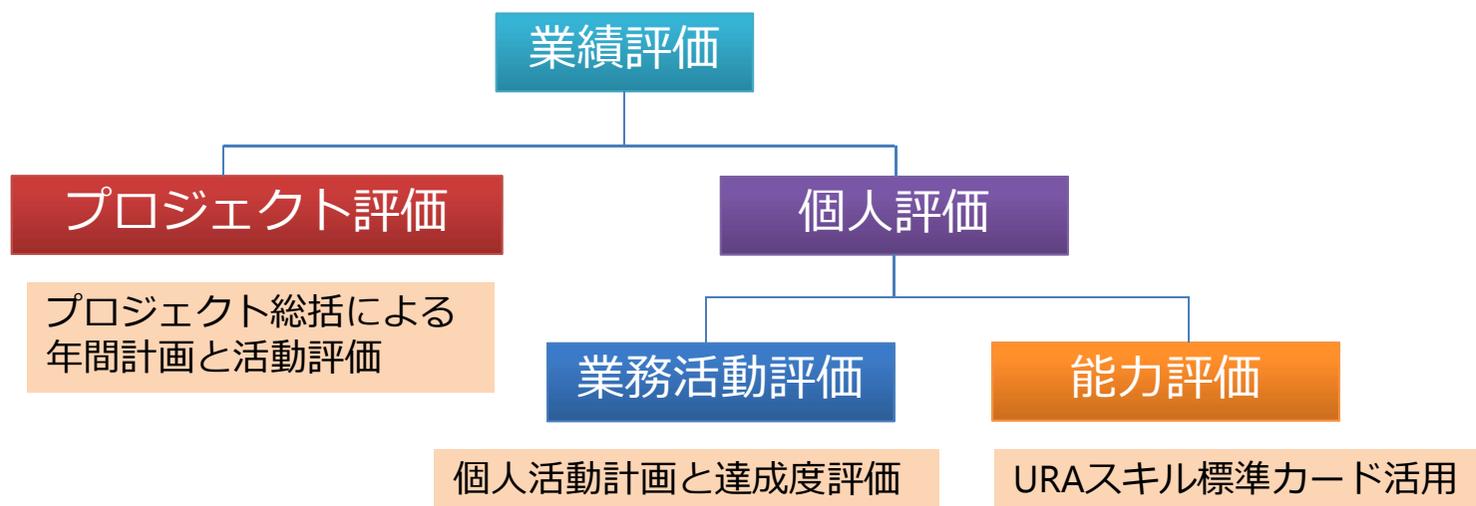
1. 本学の研究力を分析し、将来を見据えた研究戦略指針を提示し、理事や部局長の意思決定を支援すること。
2. 研究戦略指針に基づき、本学の研究拠点となる研究推進核（研究者群＋研究支援者群）を形成すること
3. 研究力向上のために、各種の研究支援方策を実施すること

 URAミッションに沿った業務実施と評価
(URA評価基準選定委員会でのミッション定義と評価基準策定)

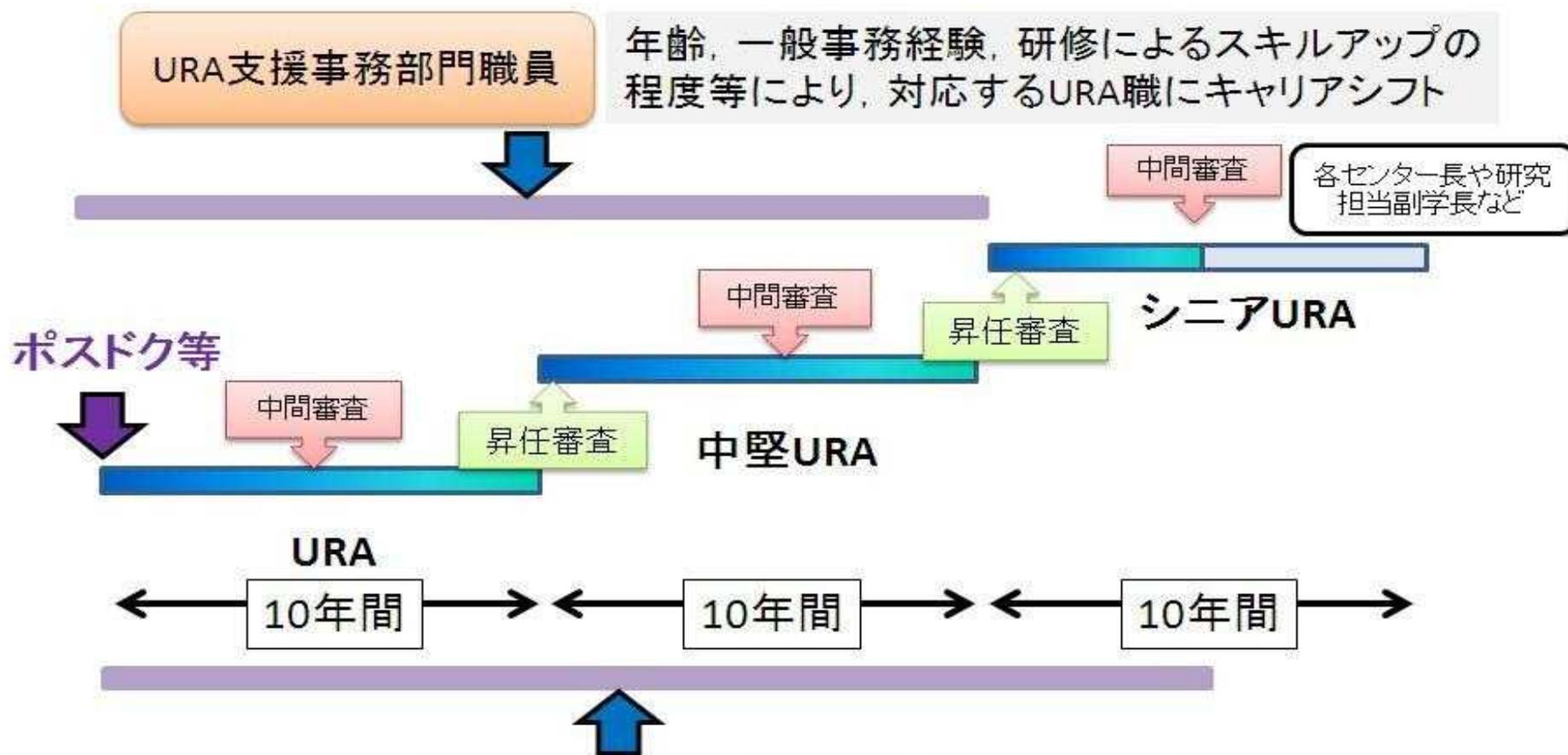
山口大学におけるURAの業績評価

山口大学URAミッションに沿った業績評価の仕組みの構築とその実施

- ◆ 「プロジェクト評価」 プロジェクトごとにおける大学への貢献度を評価する。
プロジェクトごとのURAグループ形成とそのグループ評価を行う。
- ◆ 「個人評価」 = 「業務活動評価」 + 「能力評価」
任期更新、昇給、昇格等を視野に入れ、URA個人ごとに活動計画を期首に設定し、中間評価及び期末評価を実施する。なお、URAスキル標準のスキルカードを活用することにより、URA個人ごとに、各年度の活動記録とする。
- ◆ この評価制度については、平成26年4月から評価試行



Ⅲ-① URA人材のキャリアパス形成



中途採用者については、レベル評価を面接などで行い相当するキャリアレベルで雇用。独自雇用URAも、中途採用者を同じプロセスによりレベル評価を行い職階を決定。

各職階の年数（10年間）は目安 昇進審査により早期昇進も有り。

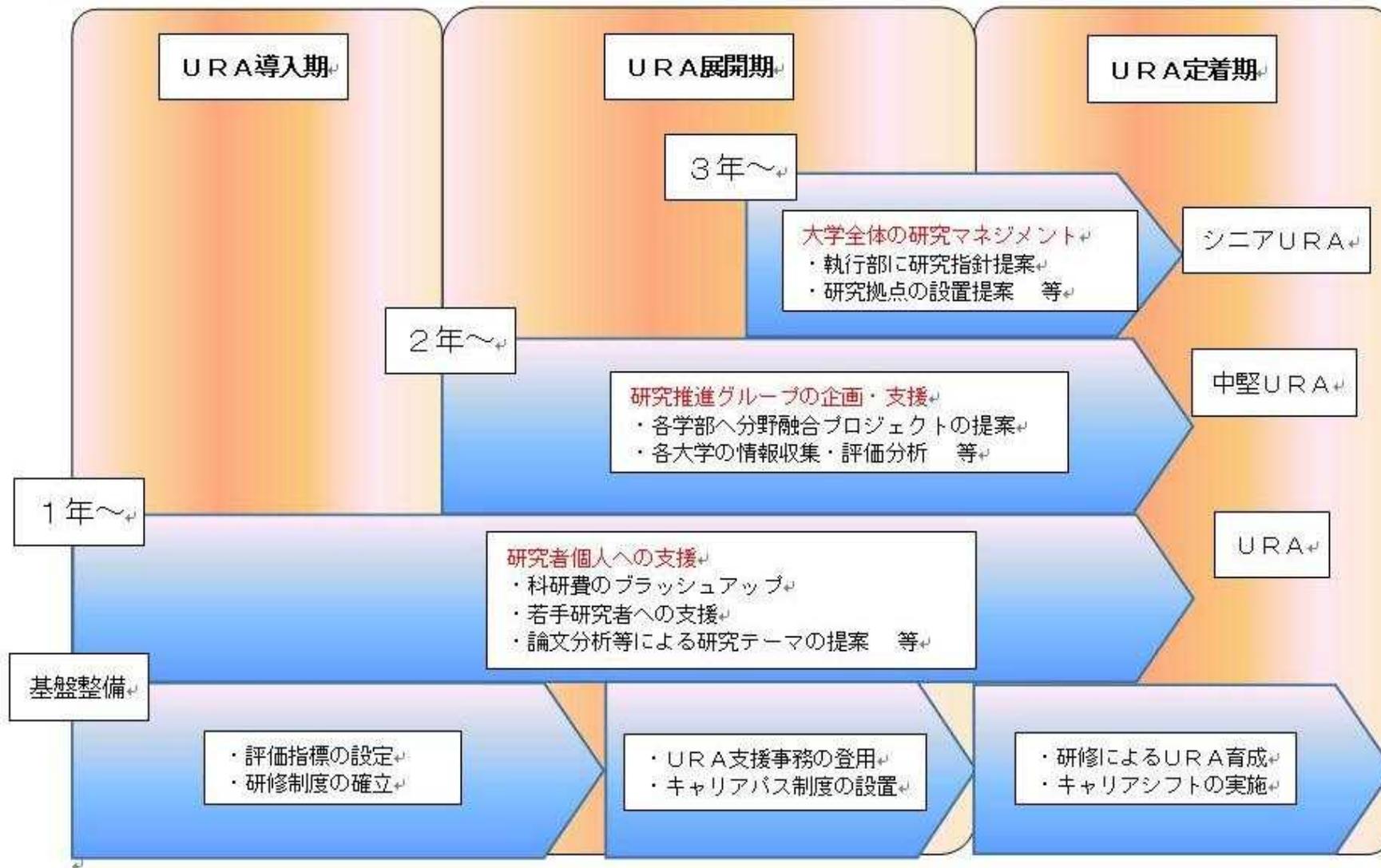
山口大学におけるURAシステムの維持への取組(1)

URA室及びURAの定着に向けた大学構成員との信頼関係の構築

- **URA室運営委員会における役員からの情報提供と良好な意思疎通**
 - 部局長会議，教育研究評議会，役員会，役員懇談会などの情報提供による大学運営の現状把握とそれに基づいたURAからの提言・提案の実施
- **学長，理事及び各部局長等との意見交換**
 - URAの持つ情報収集・分析能力の提示とその利用に向けた信頼関係の構築
- **財務関連部局などとの新たな取り組み**
 - URAと事務部門との連携による事務手法等の改革

山口大学におけるURAシステムの維持への取組(2)

URA室及びURAの定着に向けたロードマップの制定とそれに沿った動き



参考資料

1. URA室及びURA関連部署のスタッフ
2. 時間学研究所
3. 山口大学研究推進体

1. URA室及びURA関連部署のスタッフ

プロジェクトチームで一丸となって研究を支援！

2013年4月～ フルメンバー体制

◆ U R A 10名

(吉田C 3名、常盤C 4名、小串C 3名)

◆ 支援事務 6名

(専任 3名、学術研究部兼務 3名)



平成26年度 URA室及びURA関連部署のスタッフ

2. 時間学研究所

時間という観点から自然・人間・社会・文化を理解し、新たな学際領域を創造する。そして、その成果を社会に還元し、人類の幸福へ貢献する。



広中平祐
元学長

研究活動

生物学・哲学・医学・心理学・物理学・地質学・農学・社会学・経済学・文学・文化人類学・宗教学・工学・・・のさまざまな研究者が研究所に集い、文理融合の新しい学際領域を確立する。

～社会と時間の関わり～
時間をめぐる意識や制度と社会や時代の在り方との関係を研究する

～生物が生きている時間～
分子機構の理解から体内時計の測定方法まで、生物の時間を広く深く追求する

～ヒトが認識する時間～
我々の脳で時間がどのように表現/処理されているのかを追求する

～時を知る～
そもそも時間、自由、言語、心身関係とは何か、哲学の観点から研究する

～時間を定める～
天体の研究を通じて、宇宙の現象を時間を軸として考察する

社会貢献

講義 『時間学』
時間学について系統的な講義を受講できる機会の提供

公開講座 『時間学への招待』
時間学・時間学研究所の活動を山口地域社会へ紹介

公開セミナー
東京、京都、福岡などで行う時間学の市民向けセミナー

イベントへの参加・協力
サイエンスアゴラ、科学未来館展示等を通じた普及活動

時間学の書籍出版
研究所の活動から書籍を出版

- 『時間学概論』
- 『時間と時』
- 『分析哲学講義』

平成23年度文部科学大臣表彰
「科学技術賞」



多層的、複合的に時間をとらえ
文理の区別にとらわれない新しい学問を目指す

日本時間学会の設立
国際シンポジウムの実施

3. 山口大学研究推進体

◆山口大学研究推進体とは

世界水準の研究推進拠点や地域の課題研究推進拠点を形成しうる、分野横断的、学際的プロジェクト型研究体（認定期間は5年間）

◆本学が目指すべき重点研究分野

1. 低炭素社会の実現に貢献する科学・科学技術を目指す研究組織
2. ライフサイエンス・医療分野のイノベーション創出を目指す研究組織
3. 山口の歴史・社会・文化さらには東（南）アジアの歴史・社会・文化の発展に貢献する科学を目指す研究組織
4. 持続可能社会の実現に貢献する科学を目指す研究組織
5. 環境情報，気候変動予測，防災等に貢献する科学技術を目指す研究組織
6. 山口大学創基200年の歴史から未来へと展開する文理融合型研究組織

（参考）研究推進体の名称・テーマ（一部抜粋，平成21年度～25年度で22Gr認定）

分野	
1	高機能材料開発によるソフトエネルギーシステムの構築 マイクロトレンチ構造からの新規な結晶成長と省エネ電子デバイスの創成
2	次世代型再生細胞治療法の確立を目指したトランスレーショナルリサーチユニット
3	やまぐち学推進プロジェクト
4	環境共生フロンティア研究拠点
5	衛星リモートセンシングによる防災・環境研究のアジア拠点形成